

市内活性化のために復活した路面電車

[取材現場] 市内電車環状線(セントラム)・路面電車 (富山県富山市)

[取材協力者] 中村 純氏 (富山市 副市長)

時代の変化に伴う土木施設やインフラシステムを取り巻く環境の変化と現在の役割を探る学生企画「土木のここに「再」注目!」。第2回は、2016年に土木学会デザイン賞を受賞した富山市の市内電車環状線(車両愛称: セントラム)を取材しました。環状線の整備に至る経緯や運行するにあたっての新たな取組み、今後の展望など、富山市副市長の中村純氏にお話を伺いました。

まちの賑わいを取り戻すための環状運行

富山市に路面電車が導入されたのは1913年、大規模な河川改修による市街地の整備が行われた後でした。その後、戦時中に空襲で路面電車がすべて損傷してしまいました。戦後、仮復旧させた後、1952年に市内軌道路整備計画により市内を走る

複数の路線を大改修し、環状線が完成しました。しかし、1960年代以降モータリゼーションにより富山市をはじめとする日本全国で、路面電車の利用者が減少しました。特に富山市は、自動車を利用する割合が高いことも減少要因の一つとして挙げられ、道路を路面電車ではなく自動車のためにもっと開放してほしいという要望が増えたのです。その結果、

これは、コンパクトなまちづくりを推進し自動車に頼らなくても暮らせる中心市街地の形成を目指すための計画の一つとなっています。その中で富山市は公共交通を活性化させることを目指し、2007年2月に富山市中心市街地活性化基本計画が国の認定を受けました。この計画では公共交通の活性化プロジェクトとして市内電車の環状線を位置づけしており、2009年12月に路面電車の環状運行(図1点線部分、低床車両であるセントラムの専用運行)を復活させたのです。復活するにあたり、広幅員道路において車道と歩道の構成を見直すことにより、軌道敷を敷設しても自動車交通や周りの建物に影響が出ないようにしました。

他路線にはない特徴をもつ環状線

富山駅の南側では、セントラムが走行する環状線を含め計3路線がまち中を走っています。運行・管理していく上で、環状線には他の路線にはないさまざまな特徴があります。その中の一つとして路面電車事業では全国初の上分離方式が挙げられ



図1 市内電車環状線新設区間と既設区間の位置関係 (富山市資料をもとに編集委員作成)

1973年3月に環状線の一部を廃止することとなったのです。時代の変化に伴い、現在わが国では、都市機能を集約させるコンパクトシティの取組みが行われていま



写真1 国際会議場前停留場と富山城

ます。環状線を運行する富山地方鉄道が新たに車両を導入することやインフラ部の整備をすることは多額の費用がかかり、大きな負担となってしまうことが問題でした。そこで車両やインフラ部は富山市が、運行に關しては富山地方鉄道がそれぞれ行うことになったのです。

利用者や周りを通行する人のために景観に配慮した取組みが施されていることも特徴です。車両は、地域の方をはじめ観光やビジネスで訪れた人が乗りたくなくなるようなおしゃれなデザインかつ低床車両となっていま

す(写真1)。また環状線では、車両(セントラム)とホームの高さが調整されているので、スムーズに乗り降りすることができま。さらに、走行時の振動を低減するための工夫を施すことで、乗客だけではなく周辺を歩く人のためにも配慮をしています。他の路線より先行して、走行時の振動を低減するためにレールの周りを樹脂で埋める制振軌道を導入しています。

これらの取組みの中で最大の特徴は、自分たちの路面電車として乗りたいという意識を向上させることでした。セントラムをより身近に感じ

てもらうために、寄付をすると環状線の停留場のベンチに名前と好きなメッセージを入れたプレートを設置する取組みを実施しました。ほかに、車両愛称の募集を行った結果、市内から約400件もの応募があり、セントラムという名称に決定したのです。これらの取組みの結果、車の代わりにセントラムを利用してまち中に買い物で訪れる人が増えました。

路面電車で得た知識の伝承

環状線の開通に対する期待は大きなものでした。市の担当者は当時、市長や市民の方から「早く開通してほしい」と言われていたそうです。複数の工事区間を並行して行うなどの工夫の結果、環状線は工事開始から1年あまりで開業したのです。2020年には富山駅の北部を走る富山ライントレールと直通運転ができるようそれぞれの運行事業者と富山市では協議を進め、利用者にとって利便性がさらに向上するような計画を検討しています。環状線の復活から事業を進めていくなかで、運行計画やメンテナンス、事業を進める際に必要な



写真2 富山市役所にて。写真中央が中村氏

法的手続きなどさまざまなノウハウを得たと中村氏はおっしゃっています。全国では新たに路面電車を取り入れようとしている都市が増えています。その行政の担当者が、事業を進めるための法的手続きの方法をはじめ、車両のメンテナンスや技術に関する視察で富山市を訪れています。導入を計画している地域に、これらのノウハウを提供していきたいとおっしゃっています。

セントラムは、上下分離方式の導入や最新の技術を採用することで、富山市の地域交通として、より身近で利用しやすい市民の生活の足となっているのです。

(担当編集委員…中川拓朗、早内玄)